

# 雑司が谷に眠る

## 文人の武蔵野

1911年に創刊された『THE MUSASHINO』は、訪日外国人観光客を対象にした英文月刊誌の先駆けです。発行の拠点は、帝国ホテル内にあった「武蔵野発行所」。当時の帝国日本とその首都東京は、MUSASHINOを媒介にして広報されていたこととなります。ニュースや観光情報に加えて、ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn)の『THE ANCIEN』

# 武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006  
 武蔵野市中町1の13の1 3F  
 電話 0422(51)3131  
 FAX 0422(51)3133  
 musasino@yomiuri.com  
 都内版編集室 電話03(3217)1465・1466  
 江東支局 電話03(3631)6116  
 立川支局 電話042(523)4477  
 ホームページ www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027  
 【折込チラシ】 0120-03-4343  
 【読売旅行】 03(5550)0666

3月16日(水曜日)  
 旧 2月14日<先負>

■ あすの暦

通日 75	満潮 4.41
月齢13.4	15.59
(正午)	干潮 10.27
日出 5.51	22.33
日入 17.49	(中潮)
月出 15.40	
月入 4.56	



和装に身を包んだ小泉八雲 (小泉八雲記念館提供)

### 小泉八雲 ①

F CULT(古代の祭祀)の一部なども転載されています。ハーンは、ギリシャで生まれ、アイルランド、フランス、英国、米国、マルティニークと移動を繰り返して、40歳の年に来日します。英国籍だった彼は1896年、日本に帰化して小泉八雲と名乗り、その生

涯を武蔵野の地で終えます。キリスト教を嫌い日本の仏教に深い関心を寄せていた八雲は、「自分は仏教徒ではない」としていましたが、仏式で埋葬されて戒名ももらいます。墓地の所在は雑司が谷。決め手になったのは、鬼子母神信仰に母性愛をみてとり感動したこと、雑司が谷の鬼子母神で「武蔵野の薄穂で老婆の手でつくられた伝統玩具のスキミズスク」を息子に買い与えるなど、特に好んで訪れた場所だったこと、だとされています。

「THE MUSASHINO」の英文記事は、古代ギリシャと同様に古代日本では死者が神(超自然)の力を持ち、以来2000年もの間、祖先崇拜という信仰形態を成立させてきたことを伝えています。

### おすすめの1冊 「文学アルバム 小泉八雲」(小泉時・小泉凡共編)

小泉家の写真を中心にまとめられた文学アルバムです。八雲も執着したという肖像写真ははじめとして、俗謡を耳で聴いて採譜した五線譜、絵筆をとって描いた絵画や妖怪たち、自筆原稿、著作物の装幀……など。親しい人の葬儀に参列して遺影を目にして佇んでしまうあの時に似た時間を経験できると思います。



(恒文社)

つまり日本では万事において死者が国民の統率者であり国民の運命を形成してきたのだという内容です。八雲没後の掲載ですが、後に米国で日本人の心理を理解するための最良の書と言わしめる八雲日本論の要の部分でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)